小ぐまさん　の　かんがへちがひ

村山籌子

青空文庫

ある日小ぐまさんが路ばたであそんでゐますと、お猫さんが通りがゝりました。お猫さんは、ふところから　赤いものをとりだして「小ぐまさん、これなんだか知つてる？」ときゝました。小ぐまさんは　一目みて、それがほゝづきだとわかりましたので、「あら、いゝのね。ひとつでいいから下さいな。」といひました。「まあ、ひとつ下さいですつて。とてもね、大事なのよ、あげられやしない。」とお猫さんはいひながら、皮をむいて、ほゝづきの実をだしました。それをみると　小ぐまさんは、とても欲しくなりました。そして、自分のうちの畑のすみに、一本　ほゝづきの木があるのを思ひだして、

「ね、いゝでせう？　明日、二つにしてかへすから、ひとつだけ下さい。うちにほゝづきの木があるの。」といひました。お猫さんは、「まあ、二つにしてかへしてくれるのなら一つあげませう。ぢやあ、あした、きつとね。」と指切りをして、ひとつ、くれました。小ぐまさんはうれしくて　うれしくて、その晩　一晩、そのほゝづきを手のなかにいれて、ながめたり、着物をきせてお人形さんにしたりしてあそびました。

×　　×　　×

その翌日、早く起きて、小ぐまさんは畑にゆきました。そしてお昼ころまで、あつちこつちをさがしましたが、ほゝづきの木の影も形もありません。やつと見付かつたのは、ほゝづきの木によく似た、まるで別の木なのでした。小ぐまさんは、すつかり考へちがひをして、これをほゝづきの木だと思つてゐたのです。小ぐまさんはどんなに心配したことでせう。お猫さんがこれをきいたらどんなにおこるだらうかと思つて、大きい声をだして泣いてをりました。

小ぐまさんの声があまり大きいので、お隣りのあひるさんがやつてきました。あひるさんは、たづねました。

「どうしたのですか、私にはなして下さい。」

小ぐまさんは自分の心配を、あひるさんにはなしましたら、あひるさんは小ぐまさんをかわいさうに思つて、わあわあ泣きました。二人の泣き声があまりに大きいので、昨日のお猫さんがやつてきました。小ぐまさんは涙で目がみえないので、お猫さんだとはしらず、自分の心配をすつかりはなしましたら、お猫さんは「かわいさうに、かわいさうに。」と泣きました。その声をきいて小ぐまさんは飛びあがるほどおどろいていひました。

「お猫さん、ほんとにごめんなさい。」お猫さんは、そこでやつと、昨日小ぐまさんにほゝづきをあげたのは自分だといふことに気がつきました。

「私、すつかり、そんなこと忘れてゐました。」これをきいて、小ぐまさんはお猫さんが、おこつてゐないので、どんなに嬉しかつたでせう。三人でおひるのごはんをたべましたが、小ぐまさんはみんなの倍の倍も食べられました。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「子供之友」婦人之友社
　　1928（昭和3）年7月
初出：「子供之友」婦人之友社
　　1928（昭和3）年7月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年8月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

小ぐまさん　の　かんがへちがひ

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/